

1. 趣旨

近年、日本の公立学校で学ぶ外国にルーツを持つ子どもたち（日本国籍も含む）が増えている。義務教育の現場で日本語が分からない生徒がクラスにいる場合、ただでさえ忙しい教師がさらにその子どもに十分に対応することは、日本語指導の面でもクラス運営でも難しい現状がある。

神戸YWCAは1950年代から約60年にわたり専門学校として日本語教育を行ってきた実績と、効果的な日本語指導のノウハウを持っている。現在は公益財団法人としてより地域に密着し、多文化共生を実現するための活動を進める中で、地域に暮らす子どもたちの日本語支援にも力を注いでいる。

神戸YWCA学院では、外国にルーツを持つ子どもたち支援する「トータル・サポート」というプログラムを、形を変えながら2008年以降、10年以上にわたり行っている。このプログラムは、子どもたちが来日した直後から、日本社会を支える一員として社会人になっていくまで、継続的、且つ、トータルのサポートすることを目的としている。プログラムは「ことば」を中心にサポートするSTEP1と、「学校生活」を主にサポートするSTEP2と2つのステップからなる。

STEP1では、来日したばかりの子どもたちが、夏休み期間中、短期集中的に基礎的な日本語や教科日本語を学べる「勉強に役立つ日本語クラス」を実施している。STEP2では、STEP1で基礎的な日本語力をつけた子どもたちがよりよい学校生活を送るため、毎週土曜日に「はっぴー・さぼーと」「はっぴー・すくーる」というプログラムを実施してきた。ここで子どもたちは宿題をしたり、進学相談で悩みを相談したり、プログラムの先輩の話を聞いたりしながら、社会へ出ていく準備を行っている。また、季節ごとに開催されるイベントなどに参加し、学習の場としてだけでなく、居場所として神戸YWCAを活用している。また、昨年度より神戸YWCAが長年培ってきた外国につながりにある子どもたちへの支援のノウハウを他団体にも共有していく公共財化にも力を入れている。

このように、毎年行ってきた本プログラムであるが、これまでSTEP1では、期間中子どもたちが自ら公共交通機関を使用したり、親に送迎をしてもらったりするなどして、神戸YWCAまで通うというスタイルでプログラムを実施してきた。ただ、来日間もない子どもたちが公共交通機関を使って神戸YWCAに通学することについては、安全性の問題、また交通費の負担などは以前から課題であるという認識を持っていた。現に、公共交通機関の使用が条件になったため、STEP1で勉強することをあきらめざるを得ない子どもも少なくなかった。

そこで、今年度は昨年度に続き「オンライン」による参加を募ったが、オンライン希望の子どもがなく、すべて対面クラスとなった。また、上述の神戸YWCAのノウハウの「公共財化」の試みとして、神戸YWCAの日本語講師が支援を必要とする子どもたちのいる学校へ直接足を運び、サポートするという、出張形式による新たな日本語支援を行うことにした。

芦屋市の潮見小学校は芦屋市の外国につながりのある子どもを支援するセンター校である。潮見小学校には「こくさいルーム」という支援教室があり、多くの子どもたちが日本語のサポートを受けている。潮見小学校とどのような子どもにどのような形の支援を行うか、話し合いを持ち、3人の子どもの支援を行うこととした。

上記のように、2021年度は従来の神戸YWCAに加え、芦屋潮見小学校を教室としたSTEP1のプログラム実施という、公共財化につながる新たな試みを実施した年度となった。

2. 内容

(1) 対象

応募条件は「学校の勉強のために、基礎的な日本語の勉強が必要な 13 歳から 18 歳くらいの外国にルーツのある子ども（日本国籍を持つ子どもも含む）」だったが、小学校高学年の 1 名を含む 6 名。神戸 YWCA が 3 名。芦屋市潮見小学校が 3 名という配置になった。

(2) 日時

2021 年 8 月 2 日（月）～8 月 13 日 全 9 日間（土日・祝日は休み）

※芦屋潮見小は 8 月 13 日は学校自体が休みのため、全 8 日間

(3) 学習形態・学習内容

基礎的な日本語学習・・・・・・・・・・3 名（神戸 YWCA 3 名／潮見小学校 1 人

教科につながる日本語学習・・・・・・3 名（神戸 YWCA 1 名／潮見小学校 2 名）

※基礎的な日本語学習・・・・・・初級レベルの日本語を学ぶことを主な目的とする
強化につながる日本語学習・・・・・・日本語による一定のコミュニケーションは取れる子どもが対象で、教科を理解するための日本語の習得を目的とする

(4) テキスト

このプログラムでは当初、市販のテキストを使っていたが、プログラムの趣旨に合うものがなく、2013 年度から自主教材を作成し、毎年改定作業を行ってきた。

子どもが対象であること、短期間で集中的に日本語能力を伸ばす必要があることを考えたとき、市販のテキストを使用すると、一つひとつの文法項目を習得するのに時間がかかってしまう。神戸 YWCA のオリジナル教材は、扱う文法項目をコンパクトにまとめており、短期間で効果的に日本語を身につけることができる。改訂作業を重ね、2 年前よりゼロ初級に近いクラス 1 のテキスト、と初級中盤レベルのクラス 2 のテキストを配布している。

また、「教科につながる日本語学習」を対象とした子ども 2 名については、市販のテキスト『教科につながる日本語（基礎編）』（スリーエーネットワーク）、小学校の国語の教科書のリライト版などを使って指導を行った。

(5) トータル・サポート STEP2 “はっぴー・すくーる” “はっぴー・さぽーと”

STEP1 の「勉強に役立つ日本語クラス」が終了した後も継続的なプログラムを実施することで子どもたちがのびのびと自分らしくいることができる環境づくりを行っている。

毎年対面形式で 9 月から実施しているプログラムであるが、今年度はコロナ禍ということもあり、オンラインによるイベント、教科学習を計画している。

(6) 授業見学会・修了式 地域とのつながり

神戸YWCAで毎年行ってきた「授業見学会・修了式」と「地域とのつながり」（近隣の二宮地区、若菜地区の夏祭りへの参加など）であるが、昨年度に続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、実施が困難であった。一方、潮見小学校においては、学校の先生や、「こくさいルーム」で指導されている方などの見学があった。

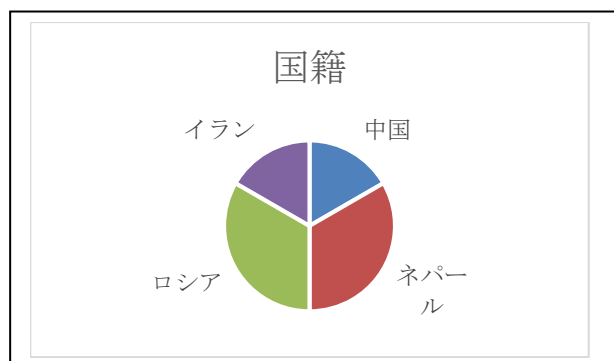
(7) 成果と課題

神戸YWCAに通った3名については、基礎的な日本語力、また英語、数学に関する知識を得ることができた。潮見小学校の基礎的な日本語力の支援対象の1名についても、完全なゼロ初級であったが、日本語の構造や活用などが学べた。一方、潮見小学校の教科につながる日本語の習得を目的とする子ども2名（兄弟で同一の家庭）については、欠席が多く、8日間で2日しかクラスが開けなかった。クラスのあった日の授業では子どもたちに自信をつけさせるという点においてある程度の成果が得られたが、いかにせん2日という出席状況では効果的な授業ができたとは言い難い。欠席が多かった要因については、子どもの家庭のプログラムに対する理解の不足という点が挙げられる。このプログラムがどのようなことを目的として行われているのか、どうしてSTEP1で日本語を学ぶ必要があるのか、という点が両親にしっかりと理解されないまま8月2日の初日を迎えてしまったことが大きく影響したものと分析している。公共財化の観点から、潮見小学校での出張形式のSTEP1の実施は来年度も継続して行いたいと考えているが、今年度見つけた問題点はクリアする必要がある。そのために、来年度は潮見小学校との情報交換を今年度以上に密に行いながら、家庭のプログラムへの理解を深めておくためにどのような方策があるのか考え、実施することが課題である。

3. 参加者の国籍等について

(1) 国籍

中国 1人
ネパール 2人
ロシア 2人
イラン 1人



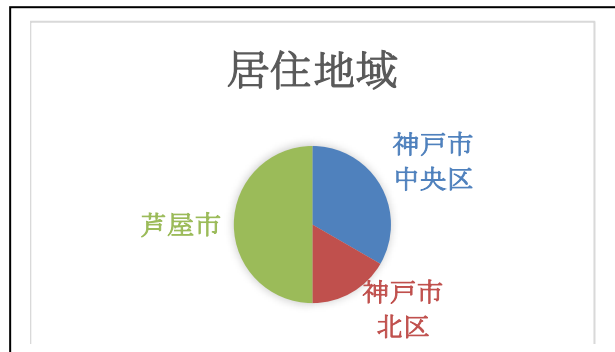
(2) 居住地域

神戸市中央区 2人

神戸市北区 1人

芦屋市 3人

全6人



(3) 学習者の集め方

- 外国人児童を支援するセンター校日本語サポーターからの紹介
- 保護者からの申し込み
- 昨年度の子ども対象プログラム参加者への呼びかけによる

4. 実績

(1) 出席状況

出席率 80%

(2) プレイスメントテストについて

毎年事前にプレイスメントテストを行っているが、今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面での試験を避けたため、全体でのプレイスメントテストは行わなかった。

どうしても必要だと思われる潮見小の2名と、神戸YWCAの1名には実力を測るため、個別に、簡単な試験を行った。

(3) 子どもたちの声

日本語の構造がよくわかった。

これまで、頭の中で整理できなかった文法が整理できた。

2年連続で参加したが、去年と比べて、日本語の力が伸びていることを実感できた。



(4) 先輩の進学先

神戸YWCA 学院日本語コースのレギュラーコース等を経て...

県立芦屋国際中等学校 県立神戸甲北高校 県立香寺高校 県立加古川南高校
県立伊丹北高校 県立東灘高校 県立西宮香風高校 神戸龍谷中学校高等学校
県立尼崎工業高校 県立芦屋高校 県立舞子高校 徳島大学 龍谷大学
甲南大学立命館大学 神戸大学工学部 兵庫県立大 大阪大学 神戸国際大学
神戸学院大学 ほか

5. 後援・協力団体等

(1) 後援

神戸市教育委員会 兵庫県教育委員会

(2) 寄付

◇寄付者名（個人 順不同）

株式会社上野商店上野隆弘 張岩 茶本卓子 原田雅子 高橋智子 関家美都子 山崎恵 上田
那由多 井上みち子 川関敏恵 玉越裕美子 鶴崎祥子 川辺比呂子 三浦啓子 西村幸枝 福
井武司 玉岡昇治 本山美登利 島田亘 西岡美幸 清水威秀 高森正雄 森下万智子 湊あす
か 募金箱

2021.9.24 現在

(4) 主な経費について

講師給

日本語講師給与。

日本語指導のスキルを持つプロフェッショナルな日本語教師が、クラスを担当した。

また、このクラスで使用する神戸 YWCA が独自に開発したオリジナル教材の作成及び教材改訂作業を行った。

お問い合わせ

神戸 YWCA 学院 日本語コース

〒651-0093 神戸市中央区二宮町 1-12-10
tel. 078-231-6303 fax. 078-231-6692

e-mail:office@kobe.ywca.or.jp

www.kobe.ywca.or.jp

YWCA

(ワイ・ダブリュー・シー・エー
(Young Women's Christian Association) は…

キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語
や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社
会参画を進め、人権や健康や環境が守られ
る平和な世界を実現する国際 NGO です。